

第5学年の“命”の単元について

地球の生命は、今から約38億年前に誕生したと言われている。その1つの生命から、“植物”と“動物”の祖先が生まれ、やがて進化を進め、現在の多様な種が誕生した。このように元は一つの生命である以上、相互の間には共通点と差異点が存在している。

第5学年では、“植物”について命のスタートである「発芽」とその後の「成長」について学び、“動物”について哺乳類と先祖を同じくする魚類のメダカの誕生と、自分自身でもある哺乳類の人の誕生を学ぶ。その一連の学びを通して、命の連続性を実感するとともに、大きく地球上の生命という見方でそれぞれの種を見通し、命の尊厳と同時に、異種同士の共通点や差異点に気付くことを通して、大きく“地球上の生命”に対する「生命概念」を形成していくことができる単元である。

※ 使い続ける見方＝共通性と多様性 そこから見えてくるもの……地球上の生命は、1つの家族（進化）

